

令和 7 年度

「運営に関する計画」
中間評価



大阪市立平林小学校

令和 7 年 1 1 月 1 9 日

学校協議会



＜ 学校組織目標 ＞

他者を尊重し、自分で考え解決できる、創造性に富む子どもの育成

＜ 学校運営の具体的な行動手段 ＞

チーム学校・教科担任制・地域に開かれたカリキュラム

【 課題の概要と重点目標 】 チーム学校の組織づくりを持続可能にする

① 基本的な生活規律の確立(安全・安心な教育の推進のめあて「あいさつ」「時間」「掃除」)

あいさつや言葉遣いに重点をおいた指導 ルールを守る大切さを朝会や学級等で注意喚起
・朝の登校指導, あいさつ週間の指導, 児童会活動「あいさつ運動」, 学級での取り組み
・看護当番体制や登下校見守り週間 登校時や休憩時間の過ごし方を各学級活動で徹底
・言葉遣いで, 相手を傷つける言葉遣いが原因で, トラブルやいじめ事案につながる事例
安全・安心な指導体制 ルールを守り規範意識を育成してきた規律を持続可能にする
・家庭環境等で遅刻をする児童に「時間を守る」大切さの指導と「自立」を促す等の支援
・民生委員や区役所子育て支援室と連携を密にし, 行政と協働した保護者への細かな支援
・「学校安心ルール」に基づき, 児童理解と保護者への連絡を最優先にした指導体制
道徳の授業や人権教育の充実 命の大切さを学び, 児童の自己肯定感や自尊感情を醸成
・たてわり班活動で高学年の持つ潜在能力とリーダーシップを発揮・相手を思いやる心
校内美化・環境整備 運動場の芝生や学習園の整備, 教室環境の改善など学習環境の整備
・児童会「たてわり清掃」・学校を大切に思い, ものを大切に扱う気持ちを育てる

② 教科等横断的な視点でカリキュラムを充実 (未来を切り拓く学力・体力の向上)

児童につけたい「力」を明確に示す 教科等横断的な「独自のカリキュラム」を年間で実施
・情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童の持つ潜在能力を引き出す
・年間を通して10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身につけさせる
「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 「できた・わかった」と実感できる授業づくり
・重点支援校4年目, 授業支援・学力分析・研修会・SAの支援等での授業力の向上
・メンター研修会の実施・学びコラボレーター支援によるテクニカルスキルの向上
高学年への教科担任制の導入 教科担任・特別支援担当・学習サポーターによる協働体制
・きめ細かな指導を実施し, どの児童に対しても等しく指導ができるように連携を工夫
・「個別最適な学び」等, 児童が安心して学習できる授業形態の工夫や環境の整備
基本的な学習習慣の定着 週2回の英語・週1回の読書タイム・漢字検定の実施
家庭学習の習慣化 毎日の宿題の習慣化と点検 学校だよりや懇談を通じて推進
年間を通じた運動能力向上のための取り組み なわとび週間・かけあし週間など
健康・衛生面の意識の向上 「手洗いがんばり週間」 給食食育指導で保護者へ啓発

③ ICT機器の積極的な活用による教育DXの推進 (学びを支える教育環境の充実)

学習者用端末・デジタル教科書等を活用 全校でICT機器の充実や校内研修を進める
しなやかな組織づくり 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を増やす
・本市「働き方改革推進プラン」の教員の勤務時間に関する基準を満たす職場環境づくり
読書活動の充実 読書ノートの活用と新聞に触れる機会の充実
・学期に1回の学級図書貸出, 図書新聞委員会による読書ノート目標冊数の向上
さざんか平林協議会と協働してカリキュラムをつくる PTA組織のネットワークづくり
・保護者参加型の企画を「総合的な学習の時間」で実施
地域・行政との連携 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・踊りの練習・地域清掃など

大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標（最終年度）

令和7年度学校運営の具体的な行動として「チーム学校×教科担任制×地域に開かれたカリキュラム」に設定し、教職員がめざす学校組織目標「他者を尊重し、自分で考え解決できる、創造性に富む子どもの育成」、児童がめざす学校教育目標「全学年仲良く明るく楽しく、勉強も遊びも全力で取り組む学校」を掲げ、めざす学校像「夢や希望を持ち、たのしく学び、遊び、語りあえる学校」、めざす子ども像「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」を基盤とした運営を実施する。

「生活規律の徹底」をめざし、今年度も「挨拶」「時間」「掃除」の3点をめあてとする。児童の課題を把握し、生活規律向上のための行動支援について工夫・深化・充実させる。

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

- ① 基本的な生活規律の確立のため、あいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の登校指導や「あいさつ週間」の指導、児童会活動の「あいさつ運動」、各学級での取り組みにより、一人ひとりの児童に心を込めてあいさつをすることへの意識が高まり、主体的にあいさつができるようになってきている。また、言葉遣いについては、多くの子どもたちがその場にあった話し方ができるようになってきている。一方で、相手を傷つける言葉遣いが原因で、トラブルやいじめ事案につながる事例もある。あいさつの励行や相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級経営を通じて、注意喚起していくことを継続的に進める必要がある。
- ② 安全・安心な学校生活を過ごすために、ルールを守ることの大切さを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、チャイムの合図や遊びのルール等については、多くの児童がルールを守ることができている。家庭環境等により登校時刻を守れない児童には「時間を守る」ことの大切さに触れ、児童の自立を促すなどの支援を進めている。保護者への支援が必要な家庭には、民生委員や区役所と連携を密にし、学校と行政が協働してサポートを行う必要がある。
- ③ 「たてわり班活動」で、児童集会、清掃、学校行事などの特別活動に取り組むことで、異学年交流が深まり、相手を思いやる心の育成が図れている。「たてわり班活動」を行うことで、高学年の児童の持つ潜在能力とリーダーシップが発揮できる機会を創り出す。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果、いじめや仲間外れについて、より深く考える児童が増えている。道徳教育や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自己肯定感や自尊感情の醸成をめざす。
- ④ 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に関心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てる。そのために、普段の清掃活動以外で健康環境委員会が主体的に「たてわり清掃」を実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切に扱おうとする気持ちを育てる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 授業での思考力・判断力・表現力の習得とともに、情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童のもつ潜在能力を引き出し、児童に10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身に付けさせる必要がある。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善や指導の工夫等の研究を行っている。本市の重点支援校5年目にあたり、授業支援・学力調査分析・研修会、メンター研修会、スクールアドバイザー・学びコラボレーターの支援等、本市や各団体主催の研修会を活用しながら、若手や教員全体の資質・能力の向上に努める。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう研修のしくみを充実・発展させる。
- ③ 児童数20名前後の少人数授業の実施を「強み」として、学級担任・特別支援担当・学びサポーター・特別支援サポーターによるきめ細かな指導ができていて、「チーム学校」としての協働した授業づくりを進め、どの児童に対しても等しく指導ができるように、個別の児童の連携を工夫している。また、「個別最適な学び」を必要とする児童に対しては、安心して学習できる工夫や整備を行う必要がある。
- ④ 毎週の朝学習による基本的な学習習慣の定着や教科担任制等の指導形態の工夫に努め、学習内容の充実を図っている。小学校学力経年調査においては、昨年同様、本市平均を前後する結果となり、学力に安定感が感じられる。しかし、国語・社会・算数が本市平均を下回っている学年もあるため、繰り返し学習や個に応じた学習等を充実させる必要がある。
- ⑤ 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで、興味関心を喚起させ、その中で「発表する力や書く力、集団で活動する力」を身につけさせるように取り組んできた。また、「ハンドサイン」や「話型」の発表等を活用した指導やグループ工夫を行った結果、多くの児童がしっかりと発表できるようになってきている。引き続き、活発な発表や内容の充実を図ることで、学びを充実させる必要がある。
- ⑥ 家庭学習の習慣化をめざし、毎日の宿題の習慣化と点検、保護者に学校だよりや懇談を通じて推進している。家庭で復習や他の勉強をする児童は59.5%(思う39.6%)で、7月の71.5%(思う49.0%)から10%減少した。学校HPなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さに関する啓発や呼びかけを行う必要がある。
- ⑦ なわとび週間やかけあし週間、学級単位の「みんな遊び」の取り組みや「遊具の改善や新たな運動用具の学級配付」など、運動能力向上のための取り組みにより、多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身についている。昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において新6年男女で握力や上体起こしに加え、50m走やシャトルランなど全国・市平均を上回ることができたが、長座体前屈や立ち幅とびで課題がある。ネットや家庭環境等により、運動の機会が少ない児童も見られ、運動環境の整備や年間を通じた体力向上をめざし、実施時期や内容に、工夫を加えて取り組む必要がある。
- ⑧ 定期的に行う「手洗いがんばり週間」などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上している。栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導し、家庭への啓発を行う。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① ICT 機器(学習者用端末・教職員用端末・大型テレビ等)・デジタル教科書などを有効活用した「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業研究を学校全体で取り組み、わかりやすい授業づくりに努めている。また、デジタル教科書を用いた授業や発表ノートやグループワークを取り入れた授業、調べ学習などで学習者用端末を活用することで、学習者用端末が児童にとって必要なツールとして定着している。本年度も学習者用端末で、考えをまとめたり発表をしたりする授業場面を増やす必要がある。
- ② ゆとりの日を週 1 回設け、定時退勤を促すこと、学校閉庁日を設定すること、行事の見直しや会議の精選を行うことで、長時間勤務の解消を図ってきた。引き続き、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を増やし、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準を満たす教員の割合を増やす。一方で、持ち帰っての業務を行う教職員もいて、学校内での勤務時間の縮減だけでなく、業務を見直すことも検討を行う必要がある。
- ③ 地域の図書館より、学期に 1 回の学級図書の貸し出しを行い、図書新聞委員会発行の読書ノートを活用し、読書活動の充実に努めている。読書が楽しみな児童は 79.6% (思う 51.3%) で、読書ノートの目標とする冊数に届く児童は少なく、新聞を読む児童も全国学力・学習状況調査では全国平均を下回っている。
- ④ さざんか平林協議会と協働してカリキュラム連携を推進してきている。地域や行政などの社会関係資本を活用し、PTA を巻き込んで地域が企画する取り組みを「総合的な学習の時間」等のカリキュラムとして学校に組み込み、学校と保護者・地域・行政とのコミュニティづくりの中で、豊かな人間性と人権感覚を育む。
- ⑤ 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・地域清掃活動など、保護者・地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。学校 HP を活用し情報発信に努めてきた結果、閲覧件数も大幅に増え、地域・保護者にも浸透しつつある。今後も一層の情報発信に努めるとともに、児童の健全育成のために行政や平林地域、こども園・保育所・隣接の小中高等学校との連携を深める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的にと答える児童の割合を 90%以上にする。また、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。
(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。
(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合をともに 92%以上にする。また、令和 7 年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に答える児童の割合をともに 92%以上にする。

(基本的な方向2 豊かな心の育成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語と算数の正答率をともに対全国比89%以上にする。また、令和7年度の小学校学力経年調査4教科合計を対象に、全ての学年で対市100以上にするとともに、国語において1学年以上で、算数において2学年以上で大阪市平均またはそれを上回るようにする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○漢字検定(3~6年)の合格率をともに72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「できている(どちらかといえばできている)」と答える児童の割合を72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度末の児童校内調査における「家庭で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上に、保護者校内調査における「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身につけている」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比の割合を1以上にする。(基本的な方向5 健やかな体の育成)

○令和7年度末の児童校内調査における「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を85%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

○令和7年度末の児童校内調査における「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の児童校内調査における「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする(基本的な方向6 教育DXの推進)。また、「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。

(基本的な方向8 生涯学習の支援)

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。教員の勤務時間に関する基準の月45時間・年間360時間を超えない教員の割合を95%以上にする。

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

○令和7年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信に努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を96%以上にする。

(基本的な方向9 家庭・地域と連携・共同した教育の推進)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（◎R7 全市共通目標から 2 つ以上設定）

【安全・安心な教育の推進】

- ◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ◎年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。
- ◎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「すすんであいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる
- ◎小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる
- ◎小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 41%以上にさせる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- ◎年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 95%以上にする。
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週 1 回以上実施する。
- 令和 7 年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信に つとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 96%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 96%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○総括

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○総括

【学びを支える教育環境の充実】

○総括

大阪市立平林小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>年度目標 ※再掲</p> <p>◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>◎年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>◎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>◎令和 7 年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>◎令和 7 年度末の児童校内調査における「すすんであいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>◎令和 7 年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。</p> <p>◎令和 7 年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◎あいさつ運動においては、児童会を中心に正しいあいさつの見本を見せることで、校内の啓発を図る。また、あいさつができたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。</p> <p>◎基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんであいさつをすることができるように学校・学年・生活だより学校 HP 等で保護者への啓発を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◎児童会を中心とした全校をあげた「あいさつ運動」を月 1 回以上実施し、振り返りを行う。</p> <p>◎生活だよりを年 10 回以上発行したり、あいさつ運動の様子などを HP に掲載したりするなどして、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◎思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面において、他学年との交流を充実させる。</p> <p>◎ペア学年や異学年交流の場を学期に 1 回以上設定し、上級生としての自覚をもたせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◎たてわり班での活動を月に 2 回以上行う。</p>	C

<p>○学期末にたてわり班で大清掃を行う。</p> <p>○道徳科の学習において、「主として人との関わりに関すること」についての学習を学期に1回行う。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習を教科横断的に取り組み、命の大切さや人権について考える機会をつくる。</p> <p>○人権・平和学習を通して、命の大切さや人権について考える時間をつくり、道徳心や社会性を高める。</p>	B
<p>指標</p> <p>○学校全体で命の大切さや人権について考える機会として、年に1回以上人権学習週間を設定する。</p> <p>○学校の教育方針を示したお便り（学校だより）を毎月発行する。</p> <p>○令和7年度末の児童アンケートにおける「学校では、命の大切さについて学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について</p> <p>生活だよりを月1回発行し、学校のきまりを分かりやすく保護者に伝えることができている。児童会が中心となって行うあいさつ運動では、月2回実施している。月ごとに、各学年にも参加してもらい取り組みを進めている。あいさつ運動の振り返りや児童アンケートの結果からは、挨拶の大切さについては理解できているようだ。また、アンケートの「すすんであいさつをしていますか」の項目では、肯定的な回答が93.7%と高い数値であったことから、あいさつに対する意識は高いように思う。</p> <p>しかし、いつでもだれにでも自発的に挨拶ができているとは言えない。今後は、自発的な挨拶を進めることと同時に、「おはようございます」の挨拶だけではなく様々な場面に応じた挨拶も身につけていく必要がある。</p> <p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について</p> <p>集会やたてわり班大掃除、全校遠足など、週に1度は他学年との交流の機会はある。また、水泳や運動会では、低中高での実施となり様々な行事で異学年交流は行うことはできている。児童アンケート「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしていますか」の項目では、肯定的に回答する児童の割合が92.8%であった。</p> <p>しかし、ペア学年での交流は少なく、学期に1回以上の設定をしているが、達成できておらず、今後集会や行事等でペア学年との交流が図れるようなゲームや取り組みを考えていく必要がある。その際に、高学年としての自覚ももてるような取り組みを教師が考えて取り組みを進めていきたい。</p> <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】について</p> <p>9月に人権平和学習週間を設け、どの学年も人権や平和についての学習に取り組むことができた。学校だよりは毎月発行し、学校の運営方針を示している。道徳、総合、学活等の時間には、命の大切さについて、学年に応じた指導も行っている。児童アンケートの「学校では、命の大切さについて学んでいますか」の項目については、肯定的に回答する児童は、93.6%であった。学校外では、異学年で遊ぶ機会も多くトラブルになったり巻き込まれたりすることがある。</p>

遊び方については児童と共に考え、自分の命も他人の命もそれぞれ大切に考えられるように、学年で話をする機会を設けていく必要がある。また、学校での学習の様子を伝えていき保護者と児童が話す機会にもなればと考えている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】について

大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>年度目標 ※再掲</p> <p>◎小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる</p> <p>◎小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる</p> <p>◎小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41%以上にさせる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学習活動において、ペアやグループ活動を行い、協働的な学びの充実を図る。</p> <p>○国語科・算数科での基礎的・基本的な学習の充実を図る。</p> <p>指標</p> <p>○令和7年度の校内調査における「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合85%以上にする。</p> <p>○漢字検定の合格率を72%以上にする。</p> <p>○基本的な計算能力向上を図るため、週に1回以上は、授業や学級活動で計算を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動の充実を図る。クラスで外遊びの日を設けたり、遊具・器具の使い方を工夫したりすることで運動の楽しさを実感できるようにする。</p> <p>○なわとび週間・かけ足週間を行うことで、基礎的な体力の向上を図る。</p> <p>指標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合</p>	B

を65%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために、手洗いがんばり週間のチェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識を学ばせる。 ○食に関する指導の充実に取り組み、食への興味・関心を高められるようにする。	
指標 ○手洗いがんばり週間を年3回行い、「保健だより」等を年10回以上配布する。 ○栄養教諭による食育指導を各学年で年間2回行い、「食育だより」を年10回以上配布し、食に関する指導を行うことで、食への関心を高める。 ○令和7年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的な学力の定着を図る取り組みとして、スタサプやデジタルドリルなどタブレットを活用した学習を行っている。自主的に課題に取り組む姿勢が見られるようになり、基礎的基本的な学習の充実につながっている。また、一部の授業においてペア・グループ学習を導入することで、児童アンケートにおける「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が85.7%に達している。</p> <p>今後は、協働的な学びに関する指導や実践について共有し、学校全体で取り組みの質の向上を図っていく。</p> <p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>各学級において外遊びの機会の確保に努めてきたことで、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が66.4%で目標を上回っている。</p> <p>一方、学校全体での運動能力の向上を図る取り組みとしては、外遊びをする児童の偏りや遊具の老朽化などの課題が残っている。児童が安心して楽しく外遊びができる取り組みや環境の整備を進める必要がある。</p> <p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>計画に基づき、各学級において実態に合わせた給食指導や食に関する指導を行うことで、児童アンケート「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が91%で目標を上回っている。また、委員会活動を通じて手洗い週間や清潔検査を実施したことで手洗いや清潔の保持の重要性について、児童への意識付けを一定程度図ることができている。</p> <p>一方で、学校全体として児童全員に一貫した習慣として定着させるには至っていない。今後は、単発的な活動だけでなく、継続的な観察や細やかな声掛けを行い学校全体として児童に望ましい生活習慣の定着を図っていく。</p>	
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】	

大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標 ※再掲</p> <p>◎授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>◎年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を95%以上にする。</p> <p>○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。</p> <p>○令和7年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を96%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○デジタルドリルの定期的な活用を図り、各教科の学習内容の習熟を深める。</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学習、学習者用端末を活用した家庭学習、協働学習支援ツールを用いた学習を実施する。</p> <p>○授業を分かりやすくするため、学習活動でのICT機器の有効活用を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>○学習者用端末を家庭に持ち帰ったときや、学習中に生じた隙間時間にデジタルドリルを週1回以上活用して、各教科の習熟を図る。</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。協働学習支援ツールを用いた学習を週1回実施する。</p> <p>○ICT機器を利用した授業を週3回以上行い、令和7年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○校内研修を年間5本以上行い、教職員の指導力の育成を図る。</p> <p>○業務を分担して円滑に進められるよう取り組み、ゆとりの日を活用するなど、時間外勤務を減らす。</p>	C

<p>指標</p> <p>○令和7年度末の教職員アンケートにおける、「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>○週に1度、ゆとりの日に定時退勤を心掛け健全なワークライフバランスをとる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○図書館の有効活用を図り、休み時間に実施している図書館開放を継続して行う。</p> <p>○図書新聞委員会が本の紹介を行い、図書室の本や新聞に触れ合う機会を増やす。</p> <p>○体験的学習や外部人材の積極的活用を行い本物に触れる機会を増やす。</p>	C
<p>指標</p> <p>○委員会活動による本や新聞を活用した取り組みを行い、本や新聞に触れ合う機会を学期に1回以上行う。</p> <p>○「読書ノート」を活用し、年間50冊以上の達成者の数を30人以上にする。</p> <p>○外部人材を活用した授業を、学年で年1回以上行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○地域と保護者を交えた学校行事を行い、地域と家庭の連携を深める。</p> <p>○学校だよりや学校ホームページを積極的に活用し、学校生活の様子を発信していくことで、家庭と学校の連携を深める。</p>	B
<p>指標</p> <p>○年に3回以上、地域や保護者を交えた学校行事を行う。</p> <p>○各学年、月1回は学校HPに記事をアップする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末を家に持ち帰らせ、学習の内容の復習としてスタディサプリを週に2回以上課題として出している。また、学校での学習においても子ども一人ひとりの学習内容の定着に合わせた課題をスタディサプリや、Navimaで配信している。復習を大切にすることで、児童に向けた学校アンケート「学校の授業はわかりやすい」の項目で90.7%を達成できている。</p> <p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校内研修は、「不祥事撲滅研修」「ICT機器活用研修」「英語指導力向上研修」などを行った。教職員アンケート「校内研修の実施計画を整備するなど、組織的継続的な研修」の項目では、78.6%となった。全員がじっくりと参加できるような行事日程を整える必要がある。</p> <p>ゆとりの日を週に1回設けることで、時間外勤務削減への意識付けができていますが、分掌の整理など課題が残る。</p> <p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>図書新聞委員会が毎日のお昼休みに図書室を開放することで、子どもたちはいつでも本に触れられる環境を整えている。しかしながら、開放での図書室の過ごし方の指導や、読書ノートの記入の仕方についても工夫をし、子どもたちが読書に関心を持てる機会を増やしたい。</p> <p>また、体験的な学習では、「田植え・稲刈り体験」、「車いす体験」などを行い、2学期には「関西電力の出前授業」「トップアスリート」や、「防災訓練」など地域と保護者を交えた行事</p>

の計画も進んでいる。

取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】

会館で育てている「サクランボ」「ビワ」の収穫体験を行い、地域を交えた取り組みを行ってきた。また、2学期以降には「防災訓練」「モルック体験」など地域と保護者を交えた行事の計画も進んでいる。保護者に向けた学校アンケート「家庭・地域と連携した取り組み」についての項目では 95.2%を達成している。

また、ホームページでは、行事や給食の献立など、学校の様子が分かる記事をアップすることができている。特に、ミマモルメのメール配信と組み合わせることで、保護者や地域に学校の情報をくまなく発信することができている。さらに担任外も発信することで、保護者はより多く学校の様子を知ることができると思われる。保護者に向けたアンケート「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目では 95.2%を達成できている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】